

2 中学校（中津市立城北中学校）

(1) 学校安全の構造と学校防災の位置づけ

学校における安全（学校安全）は、「安全教育」、「安全管理」、「組織活動」の三つの主要な活動から構成され、「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」の三つの領域からなっている。

- ① 日常生活で起こる事故・事件の発生原因と安全確保の方法について学ぶ「生活安全」
- ② 様々な交通場面における危険と安全な交通の方法について学ぶ「交通安全」
- ③ 様々な災害にかかわる危険と安全確保の方法について学ぶ「災害安全」

を内容とするものであり、教育課程の各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に位置付け、それぞれの特質に応じて適切に実施されるべきものである。

① 安全教育（本校の計画）

安全教育は、一教科・領域のレベルとしてではなく、学校経営、学級経営全体の問題として受け止め、「安全に行動できる人間の育成」を目指して実施する。

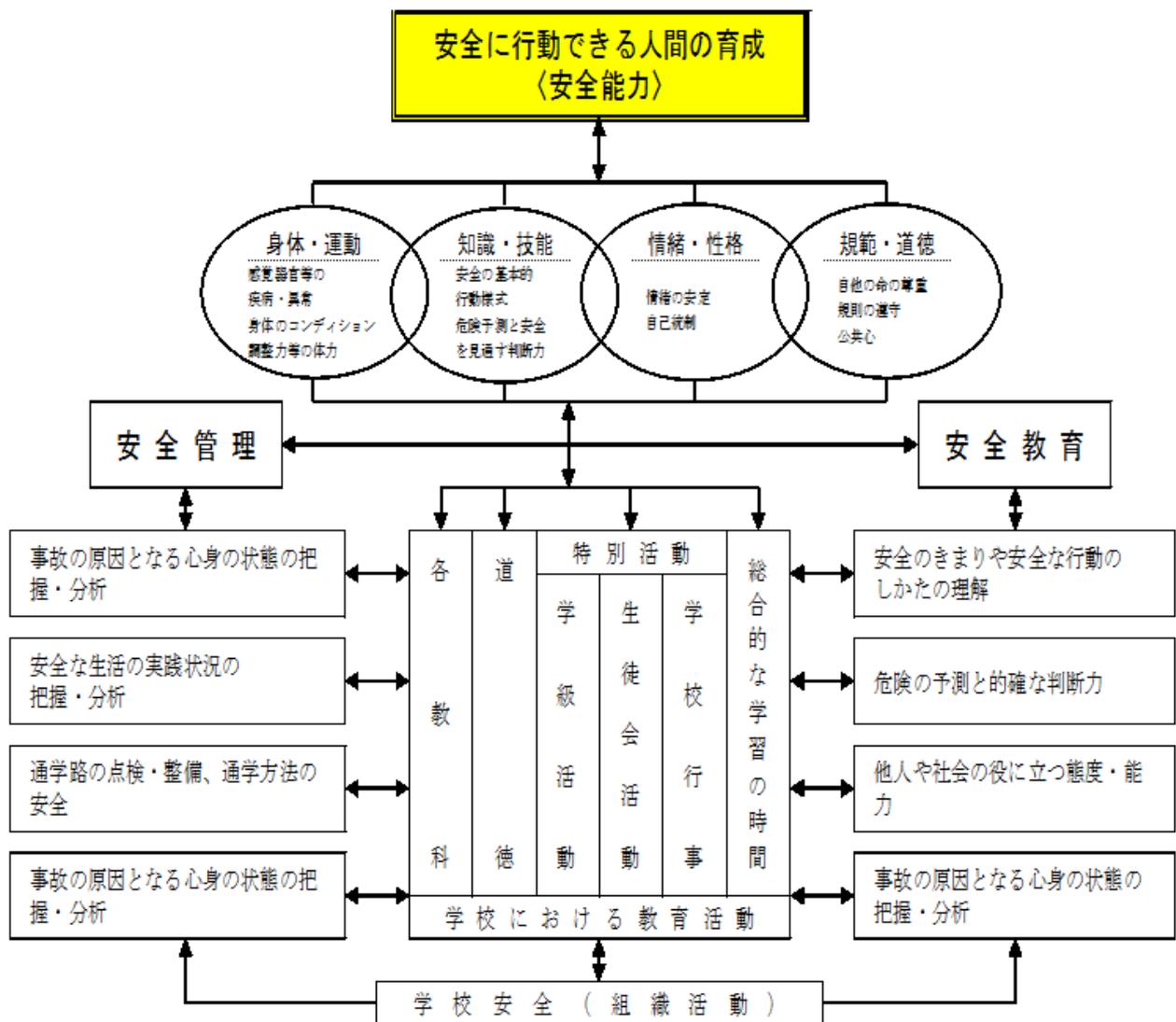


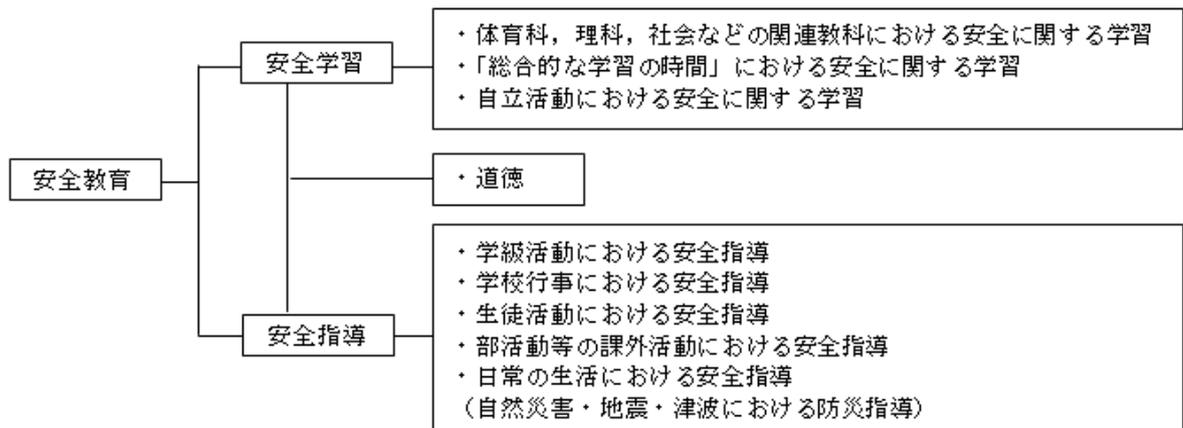
図 安全能力と学校安全活動

(吉田瑩一郎の図による)

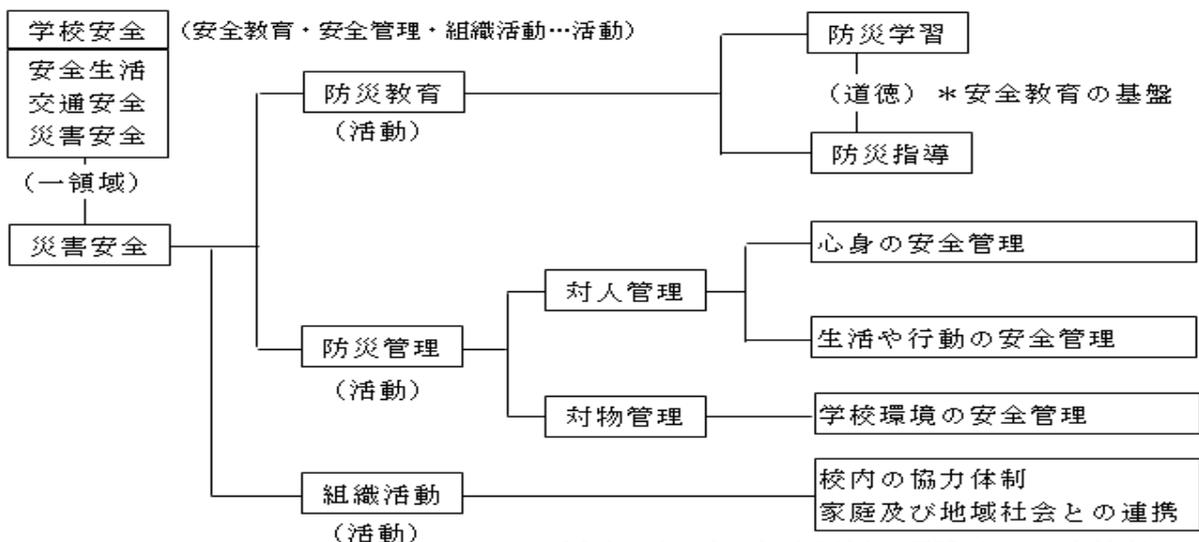
安全教育には、以下のとおり5つの方法原理があり、これを十分におさえて実施する。

1. 一回性の原理	一度失われた命は二度とよみがえらないという意味。「指導の時間がない」ということが許されるものではない。
2. 危険予測の原理	安全な行動を生み出すためには、具体的な行動場面における危険に気づき、安全な行動を見通す的確な判断力を育てることが重要である。
3. 自己統制の原理	情緒の安定、粘り強さ、がまん強さなど、「自律・自製の心」を育て、安全を見通す的確な判断が具体的な行動場面でなされるようにすることが重要である。
4. 生活習慣確率の原理	「朝寝坊」や「忘れ物」、「偏食」や「欠食」、「歯磨きの磨き残し」などは、安全な行動と深く関わっている。基本的な生活習慣の確立は重要である。
5. 地域性の原理	安全教育は、学校の立地条件や施設・設備、道路や交通事情、気象条件などに即して行わなければならない。身近な資料を用意し、臨場感のある場面設定に心掛け実感をともなう学習ができるようにすることが重要である。

〔吉田肇一郎 編著「子どもの命を育む学級における安全指導と展開」（ぎょうせい）を参考に作成〕

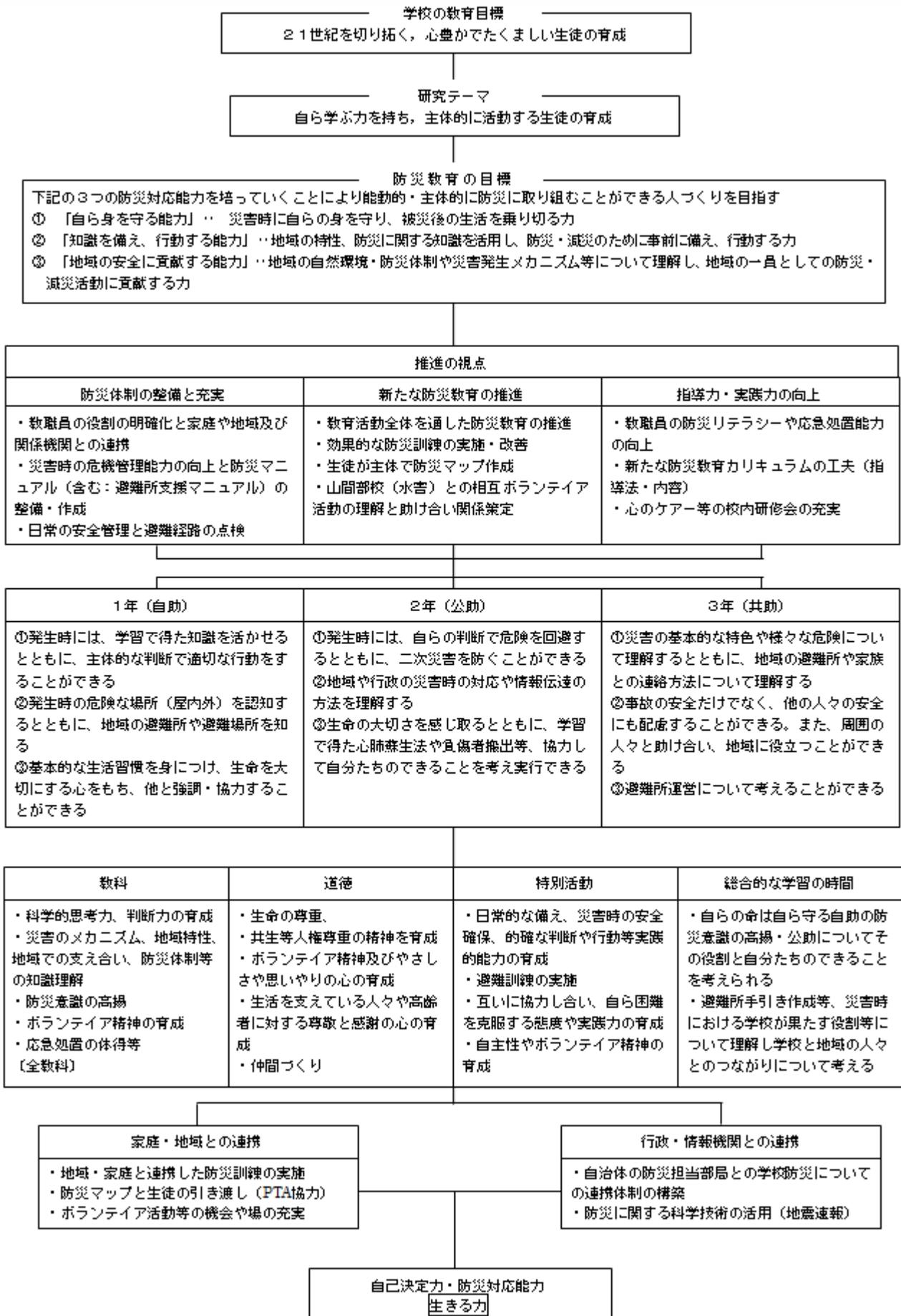


② 災害安全の構造（学校安全に準ずる学校防災）

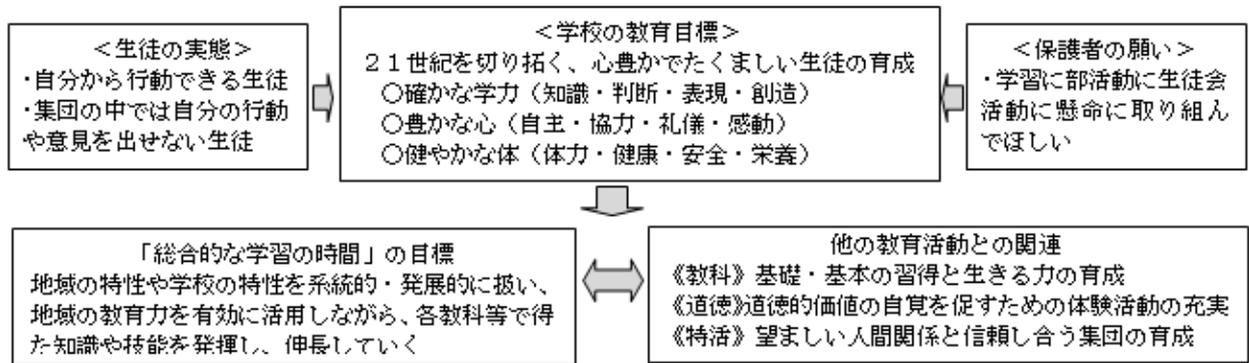


「生きる力」を育む防災教育の展開（2013/3文科省）による

(2) 防災教育単元計画



(3) 「総合的な学習の時間」全体計画



育てようとする資質や能力および態度（付けたい力）		
A 学習方法に関すること	B 自分自身に関すること	C 人や自然・社会とのかかわりに関すること
1. 課題設定力 2. 情報収集・活用力 3. コミュニケーション力 4. まとめ・表現力	1. 自己有用感 2. 自己理解力 3. 将来設計力 4. 意志決定力	1. 他者理解力 2. 協同する力 3. コミュニケーション力 4. 社会活動への参画力

年間指導計画

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
1年 (7週)	・防災学習(20h) 「災害の種類やメカニズムを知り、減災について家族や小学生に知らせよう」(自助) (1) 自然災害の種類を知ろう (2) 災害のメカニズムを考えよう (3) 防災宣言を作ろう (4) 「防災かるた」で避難行動を確認しよう ・他国との文化の違いを理解しよう「APU交流」(15h) ・職業について考えよう「職業人に学ぶ」(15h)											
2年 (7週)	・防災学習(20h) 「災害時の公的機関の働きを知り減災について下級生や地域の人々に知らせよう」(公助) (1) 災害時の行政の対応や情報通信について知ろう (2) 災害時、自分にできることを考える (3) 防災センターを体験しよう (4) 防災センターの体験をまとめ、発表しよう ・職場体験学習で自分の未来を考えよう(30h) ・進路学習「高校調べ・発表」(20h)											
3年 (7週)	・防災学習(20h) 「防災意識の大切さを知り、地域の一員としての避難所運営の手引きを作ろう」(共助) (1) 防災マップを作ろう (2) 災害後の生活を知ろう (3) 避難所運営を考えよう (4) 避難所運営の手引きを作ろう ・自分の未来について見つめよう(30h) ・自分の進路計画をまとめ、進路を決めよう(20h)											

(4) 単元の指導計画

① 総合的な学習における防災教育に関わるねらい

ア：災害についての正しい知識と、防災のあり方について理解を深める。

イ：災害発生時、発生後に必要とする知識・技能を身につける

ウ：災害発生時、発生後に大切な社会性や公德心などを養い、地域の一員としての責任を自覚する。

② 学習テーマ 大規模災害に備え、「自助」「公助」「共助」をテーマとし、系統立てて実施。

・1年 自助：「災害発生のメカニズムを知り、減災について家族や小学生に知らせよう」

・2年 公助：「災害発生時の公的機関の動きを知り減災について下級生や地域の人に知らせよう」

・3年 共助：「防災意識の大切さを知り、地域の一員としての避難所運営の手引きを作ろう」

*各学年の内容を学ぶにあたっては、関係機関との連携や外部講師の活用、各教科の学習内容との関連を図る。

※ 単元の指導計画

(「学校防災のための参考資料」文部科学省:参考)作成)

サイクル	1学期		2学期		3学期		関連教科ト領域
	災害時の種類について知る	対策について考える	避難訓練	実践してみる	まとめ	同時学習	
1年(自助)	○自然災害の種類を知ろう ・それぞれの災害の特徴 ・過去の災害や地域の災害を知る	○災害のメカニズムを考えよう ・緊急地震速報を理解する ・校内安全点検を実施する	避難訓練	○防災宣言を作ろう ・緊急地震速報を活用した避難訓練を体験する ・自然災害における減災を考え、主体的な避難訓練をする	○「防災かるた」で避難行動を確認しよう ・家庭での安全 ・登下校中の安全 ・授業中の安全 ・外出中の安全	同時学習	[理科] ・大地の変化 [技術科] ・材料と加工 [学校行事] ・講演会 ・校外学習
ポイント	・地域のゲストティーチャー ・ICT活用 ・関連施設見学	・関係機関の外部講師 (建築士会、消防署、気象予報士)		・地域のゲストティーチャー ・関係機関の外部講師(消防署)	・学習発表会により家庭での防災意識の高揚に発展		(家庭の防災とチェック)
2年(公助)	○災害時の行政の対応や情報通信について知ろう ・災害時伝言ダイヤルを知る ・国や地域の防災対策を知る ・校内防災マップづくり	○災害時に自分でできることを考えてみよう ・応急手当 ・負傷者運搬法 ・非常持ち出し品	避難訓練	○防災センターを体験しよう ・地震体験 ・初期消火、煙中体験 ・心肺蘇生法(AED)	○防災センターの体験をまとめ、発表しよう ・下級生や家庭に伝える ・災害ボランティアや避難所で、できることをまとめる ・講話視聴(外部講師)	同時学習	[社会科] ・日本の様々な地域 [保健体育科] ・応急手当ADJ E [学校行事] ・講演会 ・防災センターへ体験学習
ポイント	・地域のゲストティーチャー ・ICT活用 ・防災センター見学	・関係機関の外部講師 (建築士会、消防署、気象予報士)		・地域のゲストティーチャー ・関係機関の外部講師 (消防署、市社会福祉協議会)	・学習発表会により家庭での防災意識の高揚に発展		(家庭の防災とチェック)
3年(共助)	○防災マップを作る ・地域の避難所確認 ・地域の防災組織を知る ・住民としての責務を知る ・防災マップづくり	○災害後の生活を知ろう ・避難所運営の課題を考える ・ボランティア活動を考える ・地域防災マップ作成 ・避難所についての講話視聴	避難訓練	○避難所運営を考えよう ・避難所HUGを活用し、運営方法のシュレージョンをおこなう ・放き出し体験	○避難所運営の手引きを作る ・地域防災の一員として心構えや避難所運営についてまとめる	同時学習	[家庭科] ・調理実習 [学校行事] ・講演会 ・ボランティア体験 [その他] ・地域防災訓練への参加 ・生徒会活動
ポイント	・地域のゲストティーチャー ・ICT活用 ・関連施設見学	・関係機関の外部講師 (市社会福祉協議会、防災アドバイザー)		・関係機関の外部講師 (市社会福祉協議会、防災アドバイザー、保護者)	・地域防災訓練への参加		(家庭の防災とチェック)

3年間の系統性・発展性を持たせた内容として、1年生では自分自身の身を守ること、2年生では家庭・学校・行政の防災、3年生では、ボランティア活動と地域防災へ、活動や視点を広げていく内容としている。

☆取り組み時に、最適な思考ツールを用いて思考を深める。